

日本學報 別刷本

第86輯・pp. 143~153

否定によって日本語の行為要求疑問文はより丁寧になるのか

林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生

hylim@yamaguchi-pu.ac.jp・ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp・y.miya8411@hue.ac.jp



韓國日本學會

2011. 2

<http://kaja.or.kr>

否定によって日本語の行為要求疑問文はより丁寧になるのか*

林炫情**・玉岡賀津雄***・宮岡弥生****

hjljm@yamaguchi-pu.ac.jp・ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp・y.miya8411@hue.ac.jp

<要 旨>

本研究では、日本語の定型的な行為要求表現の肯定疑問形とその否定表現について、主観的判断の丁寧さ(以下、丁寧度)を測定し、定量化を行う。そして、日本語の行為要求表現の否定疑問形は、果たして肯定疑問形より丁寧度が高くなるのかどうかを実証的に検証することを目的とする。具体的には、日本語の定型的な行為要求表現に対する丁寧度と、その否定表現の相互間の丁寧度についての違いを定量的に検討した。また行為要求表現の肯定疑問形と否定疑問形の丁寧度は動詞の種類によって異なるかどうかを検討した。回帰木の分析の結果、5種類の定型的な行為要求表現の肯定疑問形とその否定疑問形の丁寧度は、1「～てくれる?/～てくれない?」<2「～てもらえる?/～てもらえない?」<3「～てもらえますか?/～てもらえませんか?」<4「～てくださいますか?/～てくださいませんか?」<5「～ていただけますか?/～ていただけませんか?」の順に高く、先行研究の指摘と一致することが明らかになった。(2)しかし、否定疑問形の丁寧度が肯定疑問形より高くなるかについては、「～くださいますか?」と「～ていただけますか?」のみに有意な差が認められた。つまり、敬度の高い肯定表現をさらに否定する場合にのみ当てはまることが分かった。(3)動詞の種類による丁寧度の違いは認められなかった。

キーワード：日本語行為要求表現、肯定疑問形、否定疑問形、丁寧度、回帰木分析

1. はじめに

一般に日本語の行為要求表現形式は、肯定疑問形よりも否定疑問形のほうが相手に行動の選択の余地や決定権を与え、相手の心理的負担を軽減するといわれる(菊地, 1997; 岡本, 2007; 森田・松木, 1989)。つまり、「～てくれる?」より「～てくれない?」のほうが、また「～てもらえますか?」より「～てもらえませんか?」のほうが丁寧に感じられるというものである。しかし、日本語の行為要求表現の否定疑問形は、どんな場合でも肯定疑問形より丁寧度が高くなるのだろうか。本研究では、日本語の定型的な行為要求表現の肯定疑問形とその否定表現について主観的判断の丁寧さ(以下、丁寧度)を定量的に測定し、肯定と否定の違いを検証する。

相手に何らかの行動を起こさせることを目的とする日本語の行為要求表現(国立国語研究所, 1992)には、「話して」「話しなさい」といった直接的に要求する形式のほか、「話してくれる?」「話していただけませんか?」「話してほしい」といった疑問文や願望などの表現を用いた

* 本研究は、日本学術研究費助成金・若手研究B「日本語と韓国語の呼称選択に見られるポライトネス・ストラテジーに関する研究」(課題番号18720111; 研究代表者、林炫情)の助成を受けて行った。また、本稿作成においては日本学術研究費助成金・基盤研究C「日韓両言語の呼称語と述語表現の共起関係に関する容認性判断と性格特性」(課題番号21520447; 研究代表者、林炫情)の助成も一部受けた。

** 山口県立大学 准教授

*** 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 教授

**** 広島経済大学 准教授

間接的な要求形式もある。このような直接的形式と間接的形式は定型化されており、言語形式として授受の補助動詞（「くれる/くださる」）、「もらう/いただく」）を含んだ形式が大きな位置を占める（岡本，2007）。これらの補助動詞は、「くれる」<「もらう」<「くださる」<「いただく」の順に、ストレートな要求からそれが可能かどうか相手の意向をたずねる表現となり、丁寧さが増すという主張である。（<は丁寧度の順位を表す記号として使用する。「くれる」<「もらう」とでは「くれる」より「もらう」の丁寧度が高いことを示す）。

また、岡本はいくつかの実験を行い、日本語に関しては話し手が聞き手の履行意思に配慮する必要があるほど間接的形式、とくに否定疑問形や願望形による意図の緩和が生じやすい（岡本，1986，2000；Okamoto，1992）と報告している。これは、日本語では肯定疑問形よりは否定疑問形が、より相手の気持ちに配慮した丁寧な表現として用いられている可能性を示唆するのであろう。

その一方で、動作主自身の動作が話し手の期待に直接関係している場合、否定疑問形が相手に「依頼」よりも「命令」の機能を際立たせる場合もある。例えば、「座る」「立つ」「喜ぶ」「楽しむ」のような再帰的性格の強い動詞の場合、「（～てお～）くださいますか」といった否定疑問形の使用は、その裏に〈なぜ～しないのか〉の反語的な意味を内包しているケースもあるため、失礼に聞こえてしまう（国立国語研究所，1992）ことも考えられる。

2. 研究範囲と方法

本研究では、依頼の場面でよく使われると予想される「教える」「貸す」「送る」「話す」の4つの動詞を取り上げ、それぞれの動詞と行為要求表現の肯定疑問形とその否定表現に対する主観的判断の丁寧さを定量化し、否定疑問形と肯定疑問形の間に丁寧度の違いがあるかどうかを実証的に検証する。

2.1 「行為要求表現の丁寧さ」の捉え方と主観的丁寧度評定得点の定量化

柏崎（1993，1995）では、依頼の発話行為について一文だけでなく談話全体で丁寧さを検討した。その結果、同じ発話であっても、含まれる談話の展開の仕方によって談話全体では異なった丁寧さで受け取られたりすることが明らかになった。また、単文としてはさほど丁寧でない文でも、談話の展開次第でより丁寧だと感じられたりしている。そのため、行為要求表現の丁寧さを考える際には、特定の社会的コンテクストを考慮して考察する必要があるだろう。しかし、このような社会言語学的または語用論的な観点での考察は、まず表現それぞれのもつ丁寧さが前提となつたうえで成立するものである。

そこで本研究では、否定疑問形は肯定疑問形より丁寧であるといえるのかを検証する。そのため、社会言語学的な観点での要因はすべて排除し、表現の文法的な側面から日本語の行為要求表現の丁寧さの定量化¹⁾を行う。具体的には、日本語の定型的な行為要求表現の肯定疑問形とそ

の否定表現のそれぞれについて、「全く丁寧ではない」を-2、「あまり丁寧ではない」を-1、「どちらともいえない」を0、「丁寧である」を1、「非常に丁寧である」を2とする、5段階の評定値による主観的丁寧度評定得点を設定した。この評定であれば、負の得点は丁寧でないことを示し、正の得点は丁寧であることを示してくれる。この評定法によって、肯定疑問形と否定疑問形の丁寧度に違いがあるかどうかを比較した。

2.2 本調査における定型的な行為要求表現

本調査では、定型的な行為要求表現として(1)「～てくれる?」、(2)「～てもらえる?」、(3)「～てもらえますか?」、(4)「～てくださいますか?」、(5)「～ていただけますか?」に注目した。また、(1)'「～てくれない?」、(2)'「～てもらえない?」、(3)'「～てもらえませんか?」、(4)'「～てくださいませんか?」、(5)'「～ていただけませんか?」を肯定疑問形に対する否定疑問形とし、計10種類の定型的な行為要求表現を作成した(表1)。

表1. 本調査で用いた日本語の定型的行為要求表現

肯定・否定	普通体	可能・普通体	可能・丁寧体	尊敬体	可能・謙讓体
肯定	(1)「～てくれる?」	(2)「～てもらえる?」	(3)「～てもらえますか?」	(4)「～てくださいますか?」	(5)「～ていただけますか?」
否定	(1)'「～てくれない?」	(2)'「～てもらえない?」	(3)'「～てもらえませんか?」	(4)'「～てくださいませんか?」	(5)'「～ていただけませんか?」

注. 日本語では、本来、疑問文であっても「?」は使わないが、本研究では「～てくれる?」「～てもらえる?」のように「?」無しでは疑問形か否か分からない場合があることから、あえて「?」を文末に使用した。

さらに、動詞の違いによる影響を考慮し、本調査では、使用頻度の高い「教える」「貸す」「送る」「話す」の4種類の動詞を用いた。したがって、本研究で用いた表現は、5種類の丁寧度の異なる行為要求表現×肯定・否定×4種類の動詞の合計40種類(5×2×4=40)である(表2)。

先行研究から5種類の行為要求表現の丁寧度を予測すると、「普通体<可能・普通体<可能・丁寧体<尊敬体<可能・謙讓体」の順で、それぞれの肯定表現に対する否定表現のほうがより丁寧度が高くなるのが仮定できる。本研究では、5種類の行為要求表現の肯定・否定のこの両者に関係した仮説を定量的に検討することを目的としている。調査は、日本の広島在住の日本人大学生80名(女性が47名、男性が33名)を対象に行った。

1) クロス集計表に基づく待遇表現における定量化を試みた荻野(1986)では、ほとんどすべての待遇表現の丁寧さは、一次元の値として表現できるとしている。また、丸本・白土・伊佐原(2005)では、いろいろな待遇表現に対して人々が感じる丁寧さの大きさは、何らかの心理的な空間における一次元上の値として定量化できるものとしている。

表2. 本調査で用いた日本語の動詞と行為要求表現の一覧

動詞の種類	肯定	質問紙番号	「～てくれる?」	質問紙番号	「てもらえる?」	質問紙番号	「～てもらえますか?」	質問紙番号	「～てくださいますか?」	質問紙番号	「～ていただけますか?」
	否定	質問紙番号	「～てくれない?」	質問紙番号	「てもらえない?」	質問紙番号	「～てもらえませんか?」	質問紙番号	「～てくださいませんか?」	質問紙番号	「～ていただけませんか?」
教える	肯定	1	教えてくれる?	8	教えてもらえる?	31	教えてもらえますか?	12	教えてくださいませんか?	38	教えていただけますか?
	否定	15	教えてくれない?	36	教えてもらえない?	5	教えてもらえませんか?	34	教えてくださいませんか?	21	教えていただけませんか?
貸す	肯定	33	貸してくれる?	3	貸してもらえる?	26	貸してもらえますか?	20	貸してくださいませんか?	7	貸していただけますか?
	否定	10	貸してくれない?	39	貸してもらえない?	37	貸してもらえませんか?	16	貸してくださいませんか?	25	貸していただけませんか?
送る	肯定	19	送ってくれる?	23	送ってもらえる?	13	送ってもらえますか?	35	送ってくださいませんか?	17	送っていただけますか?
	否定	30	送ってくれない?	6	送ってもらえない?	40	送ってもらえませんか?	4	送ってくださいませんか?	27	送っていただけませんか?
話す	肯定	24	話してくれる?	18	話してもらえる?	9	話してもらえますか?	29	話してくださいませんか?	32	話していただけますか?
	否定	28	話してくれない?	11	話してもらえない?	22	話してもらえませんか?	14	話してくださいませんか?	2	話していただけませんか?

3. 分析

分析では、まず日本語の定型的な行為要求表現の肯定疑問形とその否定表現についての丁寧度を測定するため、反復測定による分散分析を行った。また、日本語の行為要求表現の否定疑問形は、果たして肯定疑問形より丁寧度が高くなるのかを検証するために、それぞれの行為要求表現の主観的丁寧度評定得点について、対応のあるサンプルの t 検定（以下、 t 検定とのみ示す）を行った。以下、動詞ごとに分け、それぞれの分析結果を報告する。

3.1 「教える」の肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する分析結果

動詞「教える」における5種類の肯定疑問形表現の主観的丁寧度評定得点についての分散分析の結果、有意な主効果が得られた [$F(4,316)=196.563, p<.001$]。そして、5種類の表現のすべての組み合わせについて単純対比を行った(詳細の F 値および有意確率は省略)。その結果、(1)「教えてくれる?」 < (2)「教えてもらえる?」 < (3)「教えてもらえますか?」 < (4)「教えてくださいませんか?」 = (5)「教えていただけますか?」の順で丁寧度得点が高かった。(4)「教えてくださいませんか?」と(5)「教えていただけますか?」が同じグループになっているのは、この2つの表現の丁寧度には有意な違いがないことを示している (=の意味は以下同様)。

次に、同じ分散分析を否定表現についても行った。その結果、肯定表現と同様に有意な主効果が得られた $[F(4,316)=252.904, p<.001]$ 。5種類の表現についての単純対比の結果は、(1)'「教えてくれない?」=(2)'「教えてもらえない?」<(3)'「教えてもらえませんか?」<(4)'「教えてくださいませんか?」<(5)'「教えていただけませんか?」の順で丁寧度がより高かった。

表3. 「教える」の肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する分析結果

丁寧度	肯定表現	平均値	標準偏差	否定表現	平均値	標準偏差	t-test
1	(1) 教えてくれる?	-1.04	0.81	(1) 教えてくれない?	-0.99	1.03	n.s.
2	(2) 教えてもらえる?	-0.73	0.96	(2) 教えてもらえない?	-0.86	0.89	n.s.
3	(3) 教えてもらえますか?	0.82	0.68	(3) 教えてもらえませんか?	0.85	0.72	n.s.
4	(4) 教えてくださいませんか?	1.43	0.73	(4) 教えてくださいませんか?	1.51	0.64	n.s.
5	(5) 教えていただけますか?	1.46	0.84	(5) 教えていただけませんか?	1.66	0.53	*
単純対比		1	2	3	4	5	

注1. $n=79$. * $p<.05$. ** $p<.01$. *** $p<.001$

注2. 単純対比の数字は丁寧度を示し、下線は有意に異なったグループを示す。

さらに、肯定と否定の違いを検証するために t 検定を行った結果、有意な違いが見られたのは「教えていただけますか?/教えていただけませんか?」という丁寧度が高い表現のみであった $[t(79)=2.430, p<.05]$ 。「教えてくれる?/教えてくれない?」、「教えてもらえる?/教えてもらえない?」、「教えてもらえますか?/教えてもらえませんか?」、「教えてくださいませんか?/教えてくださいませんか?」の肯定と否定表現には有意な違いは見られなかった。つまり動詞「教える」の場合、肯定か否定かの違いが丁寧度に影響を及ぼしているのは「～いただけますか?/～いただけませんか?」のみで、「教えていただけますか?($M=1.46$)」の肯定疑問形表現よりもそれを否定した「教えていただけませんか?($M=1.66$)」の方がより丁寧であると感じるようである。

3.2 「貸す」の肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する分析結果

「貸す」についても3.1と同様の分析を行った。分析の結果は表4に示したとおりである。まず、5種類の肯定疑問形表現について分散分析を行った結果、丁寧度について有意な主効果が得られた $[F(4,316)=212.213, p<.001]$ 。5種類の表現についての単純対比の結果、(1)「貸してくれる?」の丁寧度得点が最も低く、次に(2)「貸してもらえる?」<(3)「貸してもらえますか?」<(4)「貸していただけますか?」=(5)「貸していただけますか?」の順で丁寧度得点が高かった。程度の差はあるものの丁寧度のパターンが(1)<(2)<(3)<(4)=(5)を示している点で「教える」と同じ傾向を見せている。

一方、否定表現についても反復測定による分散分析を行った結果、肯定表現と同様に有意な主効果が得られた $[F(4,316)=288.073, p<.001]$ 。5種類の表現についての単純対比の結果、「貸してくれない?」=「貸してもらえない?」<「貸してもらえませんか?」<「貸していただけますせん

か？」 = 「貸していただけますか？」の順で丁寧度得点が高かった。(4)「貸してくださいませんか？」と(5)「貸していただけますか？」の間には有意な違いはなかった。この点で、前述の3.1の(4)「教えてくださいませんか？」 < 「教えていただけますか？」とは異なる結果となった。

表4. 「貸す」の肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する分析結果

丁寧度	肯定表現	平均値	標準偏差	否定表現	平均値	標準偏差	t-test
1	(1) 貸してくれる？	-1.04	0.82	(1) 貸してくれない？	-1.09	0.90	n.s.
2	(2) 貸してもらえる？	-0.84	0.93	(2) 貸してもらえない？	-0.94	0.89	n.s.
3	(3) 貸してもらえますか？	0.71	0.73	(3) 貸してもらえませんか？	0.84	0.70	n.s.
4	(4) 貸していただけますか？	1.29	0.66	(4) 貸していただけますか？	1.53	0.66	**
5	(5) 貸していただけますか？	1.39	0.68	(5) 貸していただけますか？	1.56	0.61	*
単純対比		1	2	3	4	5	

注1. n=80. * p<.05. ** p<.01. *** p<.001

注2. 単純対比の数字は丁寧度を示し、下線は有意に異なったグループを示す。

肯定と否定の違いに関する t 検定の結果、「貸してくれる？/貸してくれない？」、「貸してもらえる？/貸してもらえない？」、「貸してもらえますか？/貸してもらえませんか？」の肯定と否定表現には有意な違いはなく、「貸していただけますか？/貸していただけますか？」[t(79)=2.897, p<.01]と「貸していただけますか？/貸していただけますか？」[t(79)=2.333, p<.05]においてのみ、有意な違いが見られた。つまり、丁寧度においては肯定表現である「貸していただけますか(M=1.29)」と「貸していただけますか(M=1.39)」よりも、それぞれの否定表現である「貸していただけますか(M=1.53)」と「貸していただけますか(M=1.56)」のほうをより丁寧に感じていることが分かった。

3.3 「送る」の肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する分析結果

「送る」の5種類の肯定表現について分散分析を行った結果、丁寧度に有意な主効果が得られた[F(4,308)=235.628, p<.001]。5種類の表現について単純対比の結果、丁寧度のパターンは「教える」「貸す」と同じ結果となった。具体的には、(1)「送ってくれる？」 < (2)「送ってもらえる？」 < (3)「送ってもらえますか？」 < (4)「送っていただけますか？」 = (5)「送っていただけますか？」の順に丁寧度がより高かった。

一方、否定表現についても同様の分散分析を行った結果、肯定表現と同様に有意な主効果が得られた[F(4,316)=189.899, p<.001]。単純対比の結果、(1)「送ってくれない？」 = (2)「送ってもらえない？」 < (3)「送ってもらえませんか？」 < (4)「送っていただけますか？」 = (5)「送っていただけますか？」の順で丁寧度が高くなることが分かった。これは3.2の「貸す」の丁寧度パターンとも同じ結果であった。

表5. 「送る」の肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する分析結果

丁寧度	肯定表現	平均値	標準偏差	否定表現	平均値	標準偏差	t-test
1	(1) 送ってくれる?	-1.14	0.82	(1) 送ってくれない?	-1.06	0.86	n.s.
2	(2) 送ってもらえる?	-0.97	0.77	(2) 送ってもらえない?	-0.92	0.95	n.s.
3	(3) 送ってもらえますか?	0.78	0.62	(3) 送ってもらえませんか?	0.67	0.85	n.s.
4	(4) 送っていただけますか?	1.14	0.98	(4) 送っていただけませんか?	1.42	0.67	**
5	(5) 送っていただけますか?	1.38	0.67	(5) 送っていただけませんか?	1.44	0.89	n.s.
単純対比		1	2	3	4	5	

注1. $n=78$. * $p<.05$. ** $p<.01$. *** $p<.001$

注2. 単純対比の数字は丁寧度を示し、下線は有意に異なったグループを示す。

肯定と否定の違いについて t 検定を行った結果、「送ってくれる?/送ってくれない?」、「送ってもらえる?/送ってもらえない?」、「送ってもらえますか?/送ってもらえませんか?」、「送っていただけますか?/送っていただけませんか?」の肯定と否定表現には有意な違いはなく、「送っていただけますか?/送っていただけませんか?」 [$t(79)=2.792, p<.01$] のみに有意な違いが見られた。丁寧度においては肯定表現である「送っていただけますか (M=1.14)」よりも「送っていただけませんか (M=1.42)」の否定表現を丁寧に感じるようである。

3.4 「話す」の肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する分析結果

「話す」についても同様の分散分析を行った。その結果、丁寧度について有意な主効果が得られた [$F(4,316)=163.107, p<.001$]。単純対比の結果は、表6に示したとおりである。具体的にみると、丁寧度は(1)「話してくれる?」=(2)「話してもらえる?」<(3)「話してもらえますか?」<(4)「話していただけますか?」<(5)「話していただけますか?」の順に高かった。(1)「話してくれる?」と(2)「話してもらえる?」とで有意差がなかったこと、(4)「話していただけますか?」と(5)「話していただけますか?」に有意差がみられたことは、前述の「教える」「貸す」「送る」とは異なるパターンを示している。

一方、否定表現についても分散分析を行った結果、肯定表現と同様に有意な主効果が得られた [$F(4,316)=193.203, p<.001$]。5種類の表現について単純対比を行った結果は、表6の否定表現にまとめたように、(1)「話してくれない?」=(2)「話してもらえない?」<(3)「話してもらえませんか?」<(4)「話していただけませんか?」=(5)「話していただけませんか?」の順に丁寧度が高くなっている。これは、「貸す」「送る」と同様のパターンを示していることになる。

表6. 「話す」の肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する分析結果

丁寧度	肯定表現	平均値	標準偏差	否定表現	平均値	標準偏差	t-test
1	(1) 話してくれる?	-0.91	1.03	(1) 話してくれない?	-0.99	0.91	n.s.
2	(2) 話してもらえる?	-0.90	0.88	(2) 話してもらえない?	-0.89	0.95	n.s.
3	(3) 話してもらえますか?	0.71	0.77	(3) 話してもらえませんか?	0.83	0.81	n.s.
4	(4) 話していただけますか?	1.15	0.96	(4) 話していただきませんか?	1.54	0.79	***
5	(5) 話していただけますか?	1.40	0.79	(5) 話していただけませんか?	1.50	0.60	n.s.
単純対比		1	2	3	4	5	

注1. n=80. * p<.05. ** p<.01. *** p<.001

注2. 単純対比の数字は丁寧度を示し、下線は有意に異なったグループを示す。

肯定と否定の違いについての t 検定では、「話していただけますか?/話して下さいませんか?」のみに有意な違いが見られた[t(79)=3.303, p<.01]。丁寧度は「話していただけますか? (M=1.15)」の肯定表現よりも「話していただきませんか? (M=1.54)」の否定表現のほうが、より丁寧であると判断する傾向がある。

4. 回帰木による総括的分析

本研究の肯定疑問形と否定疑問形の表現の違いが日本語の行為要求表現の丁寧度に及ぼす影響をより総括的に検討するために、回帰木(regression tree)による分析を行った。分析には、SPSS社が開発したAnswer Tree 3.0Jを使用した。回帰木分析では、丁寧度(-2から+2の敬度)を、5種類の定型的な行為要求表現(「~てくれる?」から「~ていただけますか」まで)と2種類の肯定疑問形・否定疑問形の表現、4種類の動詞によって予測する分析を行った。この分析では、次の3つのことを検討する。

(1) 丁寧度は行為要求表現の種類によって異なるか。(2) 定型的な行為要求表現の丁寧度は肯定疑問形・否定疑問形によって異なるか。(3) 行為要求表現の肯定疑問形と否定疑問形の丁寧度は動詞の種類によって異なるか。

回帰木の分析結果は、図1に示したとおりである。図1の回帰木の出発点であるノード0は、対象となる行為要求表現(5種類の行為要求表現×肯定・否定×4種類の動詞、合計40種類)全体の丁寧度平均が0.34(標準偏差は1.36)であることを示している。また、丁寧度のノード0からノード1からノード5まで行為要求表現の違いについての枝が伸びている。これはノード1からノード5のそれぞれの表現について丁寧度に有意な違いがあることを示している[F(4,3192)=1435.919, p<.0001]。したがって、5種類の定型的な行為要求表現はそれぞれ丁寧度が異なる表現であることが分かる。なお、ノード1からノード5の平均(M)は、それぞれの定型的な行為要求表現の肯定疑問形とその否定表現の丁寧度の平均値である。

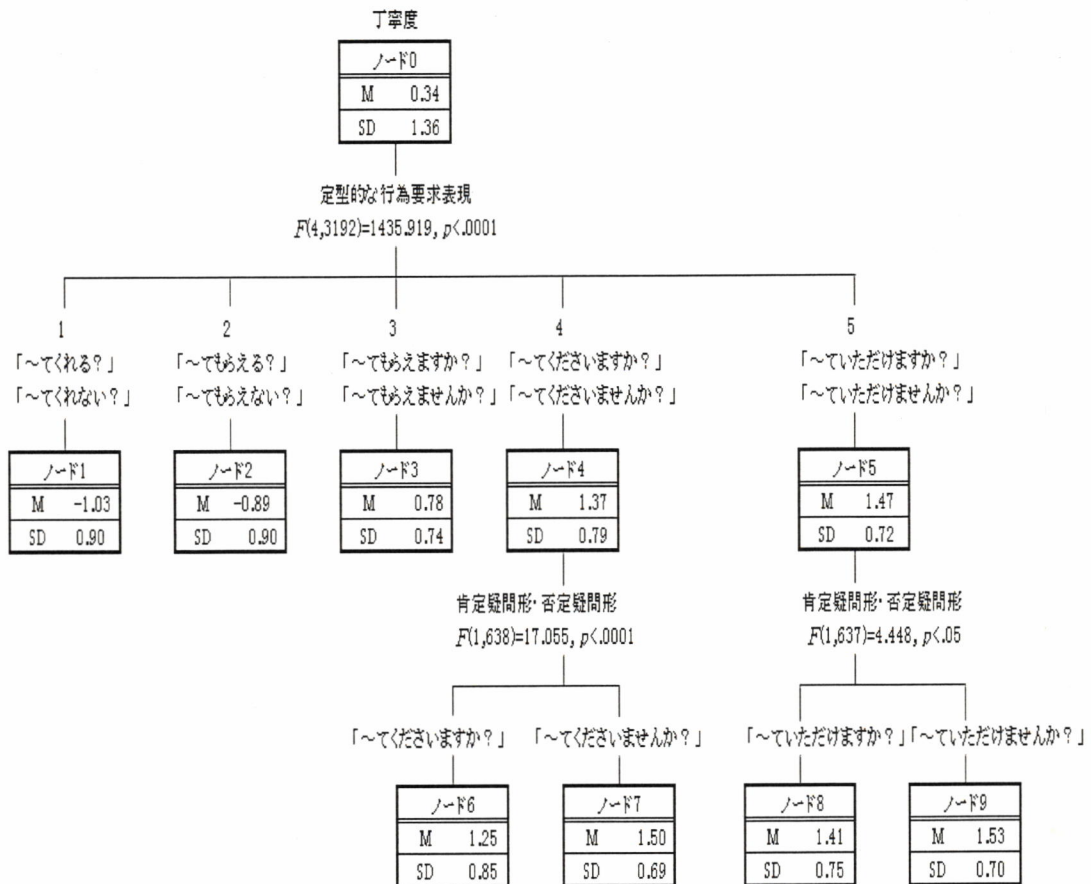


図1. 日本語の定型的な肯定行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する回帰木分析

注. Mは平均, SDは標準偏差を示す。

5種類の定型的な行為要求表現の丁寧度は、1「～てくれる？／～てくれない？」(M=-1.03) < 2「～もらえる？／～もらえない？」(M=-0.89) < 3「～てもらえますか？／～てもらえませんか？」(M=0.78) < 4「～てくださいますか？／～てくださいませんか？」(M=1.37) < 5「～ていただけますか？／～ていただけませんか？」(M=1.47)の順に有意に高かった。

次に、定型的な行為要求表現の肯定疑問形と否定疑問形の丁寧度への影響をみると、ノード4「～てくださいますか？」とノード5「～ていただけますか？」においてのみ有意な違いが見られた。それぞれの肯定・否定の平均を比べると、両表現ともに、肯定表現よりも否定表現の方が平均が高かった。つまり、「～てくださいますか？」(M=1.25)より「～てくださいませんか？」(M=1.50)が、「～ていただけますか？」(M=1.41)より「～ていただけませんか？」(M=1.53)の方が丁寧であった。

最後に、動詞の種類による違いは回帰木に示されていないことから、本研究で取り上げた4種類

の動詞、「教える」「貸す」「送る」「話す」の行為要求表現における丁寧度のパターンには有意な違いがないことが明らかになった。

5. まとめ

本研究では、(1)「～てくれる?」、(2)「～てもらえる?」、(3)「～てもらえますか?」、(4)「～てくださいますか?」、(5)「～ていただけますか?」の5種類の定型的な行為要求表現に対する丁寧度と、その否定表現の相互間の丁寧度についての違いを定量的に検討した。動詞別の分析では丁寧度のパターンに若干の違いが見られるものの、大きな違いが見られなかったことから、回帰木分析による結果を中心にまとめると、次の3つに要約することができる。

第1に、5種類の定型的な行為要求表現の肯定疑問形とその否定表現の丁寧度は、1「～てくれる?／～てくれない?」<2「～てもらえる?／～てもらえない?」<3「～てもらえますか?／～てもらえませんか?」<4「～てくださいますか?／～てくださいませんか?」<5「～ていただけますか?／～ていただけませんか?」の順に高かった。つまり、本研究の5種類の定型的な行為要求表現の丁寧度は先行研究(菊地, 1997; 岡本, 2007; 森田・松木, 1989)からの予想と一致するものである。

第2に、「意向を尋ねる形をとって頼む場合、否定疑問形のほうが肯定疑問形よりも丁寧な感じがある」とする菊地(1997)の指摘は、本研究の回帰木による分析では「～てくださいますか?」と「～ていただけますか?」の丁寧度が高い場合に限って支持された。しかし、「～てくれる」に対する「～てくれない」、「～てもらえる」に対する「～てもらえない」、さらに「～てもらえますか」に対する「～てもらえませんか」は、否定疑問形を用いても敬度に違いがない。これは、否定疑問形の表現による敬度が肯定形と変わらないことを示しており、菊地(1997)の主張は、敬度の高い肯定表現をさらに否定する場合にのみ当てはまることが分かった。

第3に、本研究で用いた4種類の動詞、「教える」「貸す」「送る」「話す」の意味の違いが、肯定疑問形と否定疑問形の丁寧度の違いに影響しているか否かについては、少なくとも社会言語学的側面を排除した本調査では認められなかった。つまり、疑問文を否定形にすることによる丁寧度の違いは、あくまで敬度の高い場合にのみ見られたが、その傾向は動詞の種類に起因するのではないことが示された。

ただし、行為要求表現の丁寧度の問題は、相手との関係(上下・親疎)や場面・状況などの社会的要因に影響されることが多く、対人関係の観点からコスト(負担)や影響力の大きさなどにも着目した使い分けの検討が合わせて必要であることはいうまでもない。また、日本語の依頼・要求表現では、最近の傾向として、「～ていただけますか?」の代わりに「～ていただいてもよろしいですか?」という許可を得る表現形式が使われる場合が増えているようである(岡本, 2007)。岡本も指摘しているように、許可を得る形式は、相手に主導権を与えており、丁寧度の最上位に位置す

る。つまり、聞き手に履行義務がある場合にも聞き手に許可を求める形にして丁寧度を高める表現を用いることは、相手に良い印象を与えようと働きかけるストラテジーであるとも考えられる。今後、本研究で取り上げていない表現も含め、日本語の行為要求表現の多様性とその使い分けの規則性を明らかにしていきたい。

◀ 参考文献 ▶

- 国立国語研究所(1992)『日本語教育指導参考書18・敬語教育の基本問題(下)』国立国語研究所
 菊地康人(1997)『敬語』講談社
 仲真紀子・無藤隆(1983)「間接的要求の理解における文脈の効果」『教育心理学研究』31. p.195-202.
 石川有紀子・無藤隆(1990)「要求表現の文脈依存性」『教育心理学研究』38(1). p.9-16.
 上野田鶴子(1983)「命令と依頼」水谷修・中村明・野村雅昭(編)『講座日本語の表現3, 話し言葉の表現』筑摩書房
 荻野綱男(1986)「待遇表現の社会言語学的研究」『日本語学』5(12). p.55-63.
 岡本真一郎(1985)「要求の言語表現の検討」『愛知学院大学文学部紀要』14. p.29-42.
 岡本真一郎(1986)「依頼の言語的スタイル」『実験社会心理学研究』26(1). p.47-56.
 岡本真一郎(2000)『言語的表現の状況的使い分けに関する社会心理学的研究』風間書房
 岡本真一郎(2007)『ことばのコミュニケーション：対人関係のレトリック』ナカニシヤ出版
 柏崎秀子(1993)「話しかけ行動の談話分析－依頼・要求表現の実際を中心に－」『日本語教育』79. p.53-63.
 柏崎秀子(1995)「談話レベルで捉える丁寧さ－談話展開が丁寧度判定に与える影響」『日本文化研究所紀要』1. p.61-75. 亜細亜大学
 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
 丸本聡子・白土保・伊佐原均(2005)「動詞待遇表現に対する丁寧さの印象に関する定量的分析－接頭辞を用いた表現と接頭辞ゴを用いた表現との比較」『自然言語処理』12(5). p.71-90.
 森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型』アルク
 Okamoto, S.(1992)Expressions of request in the Japanese language: Requesters' Considerations for requestees' costs. *The Japanese Journal of Experimental Social Psychology*, 31, p.211-221.

- 투 고 : 2010. 11. 30.
 ■ 심 사 : 2010. 12. 11.
 ■ 심사완료 : 2011. 1. 8.